

松ノ木内湖および伊庭内湖の魚類相

三枝 仁・太田豊三・大澤宏史

1. 研究目的

琵琶湖の湖西地域では、かつてはホンモロコの好適な漁場が形成されていたが、近年はホンモロコの漁獲は少なく、湖西地域を拠点とした増殖対策が必要となっている。そこで、湖西地域でかつてホンモロコの再生産が見られた松ノ木内湖が増殖水域として利用できるかを検討するため、松ノ木内湖の現況把握として魚類相を調査した。

2. 研究方法

平成22年5月と7月に小型定置網を用いて魚類を採捕した。また、結果を比較するため、近年ホンモロコの再生産が好調な伊庭内湖においても同時期に同型の小型定置網を用いて採捕を行なった。なお、比較用の伊庭内湖においては、平成14～15年度琵琶湖および河川の魚類等の生息状況調査での調査と同じ地点で採捕を実施した。本調査で採捕した魚類は、研究室に持ち帰り冷凍し、後日解凍して魚種ごとに選別し、採捕尾数と重量を測定した。

3. 研究結果

調査地点ごとの調査日数および採捕結果を表1に示す。松ノ木内湖では、5月の調査時に魚類13種と甲殻類2種が、7月の調査時には、魚類12種と甲殻類3種が採捕されていた。一方、伊庭内湖では、5月と7月の調査とも魚類10種と甲殻類2種が採捕されていた。

また、各水域の調査時期ごとの優先種を見てみると、松ノ木内湖では5月にはアユ、ゼゼラ、フナ類の順で上位を占め、7月では、フナ類、ウグイ、ホンモロコ(稚魚)の順であった。伊庭内湖の5月では、アユ、ゼゼラ、ホンモロコ(親魚)が、7月ではオオクチバス、フナ類、ゼゼラの順となっていた。

松ノ木内湖では、外来魚の採捕が少なく、在来魚類が多く採捕されており、種類数でも伊庭内湖を上回る種類数が確認された。また、ホンモロコが親魚、稚魚とも採捕され、ホンモロコの再生産が行なわれていることも確認できた。

表. 小型定置網による1日1統あたりの採捕尾数と採捕重量

地点 時期 調査日 設置日数 取上回数	松ノ木(2010)				伊庭内湖(2010)				伊庭内湖(2003)		伊庭内湖(1994)	
	5月 5/27,28 2 2	7月 7/2 1	5月 5/27,28 2 2	7月 7/1,2 2 2	5月 5/23 1 1	6月 6/23,24 4 2	尾数(尾)	重量(g)	尾数(尾)	重量(g)	尾数(尾)	重量(g)
ホンモロコ稚魚	18.5	40.0	10.0	66.0								
ホンモロコ親魚	2.0	20.0	10.0	66.0								
タモロコ	2.0	7.4										
フナ類	21.5	1348.0	2.0	121.2	3.0	24.5						
コイ		833.2		45.0		12.0						
アユ	82.0	39.0	44.0	29.6	1.0	1.5						
カワムツ		177.8		5.0	2.0	0.5						
ヒギイ	2.0	60.3	1.0	22.1								
ドジョウ類	2.0	18.9										
ウグイ	1.0	499.0										
オイカワ		172.2										
ウキゴリ	1.5	1.0										
ヨシノボリ	3.0	7.2			2.5	1.7						
モツゴ	2.0	12.5			1.0	7.6						
ゼゼラ	52.0	11.0	11.5	40.5	43.0	126.9						
カネヒラ		82.5		2.5		3.9						
デメモロコ		2.2	2.0	1.1								
ムギツク		2.0	1.0	12.7								
ナマス												
タイリクバラナグ												
ヌマチチブ	1.0	3.3	1.0	1.7	1.0	1.6						
アメリカザリガニ	28.0	39.0	28.0	425.1	246.5	3980.0						
スジエビ	352.5	627.1	251.0	25.1	297.0	114.6						
ヌマエビ類		155.6										
カムルチ		0.4										
ブルーギル	1.0	247.7	1.0	395.8								
オオクチバス		1.0			3.5	239.3						
魚類種数	13	12	10	10	5	10						
甲殻類種数	2	3	2	2	1	1						

・伊庭内湖(2003)および(1994)は、平成6～7年度および平成14～15年度「琵琶湖および河川の魚類等の生息状況調査報告書」より転記